

造園力で地方創生
～地域資源を活用した地域振興～

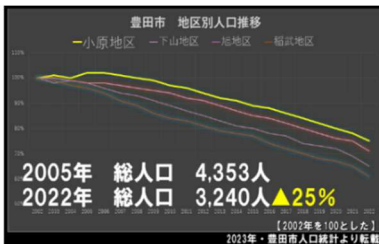
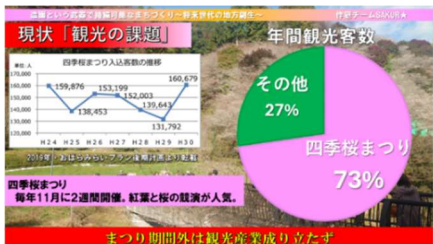
愛知県立猿投農林高等学校 3年

代表者：長嶋 歓奈

山内 結菜 三宅 流星 丸山 綸斗

愛知県豊田市小原地区。良質な美濃焼の原料が採れることから、経済的に豊かなまちでした。2000年代後半、安価な中国製品に押され採石会社の廃業が相次ぎ、掘削跡地では土砂崩れも発生。多くの方が地区を去りました。いっぽう観光客は四季桜とモミジの共演が楽しめる秋に集中、周年を通じた観光業は成り立ちません。3年前、豪雨災害で地区最大の名所が崩落し観光客は激減、地区は消滅寸前。ところが地元の方、特に高齢者に危機感はなく、住民同士の連携も希薄。危機感を持つ小原中学校の先生から農業高校生の力で地元を復活させて欲しいと、切実な相談を受けました。

そこで私たちが学ぶ造園で地方創生を実現し、社会問題に挑むことにしました。



研究目標「地場産業の新たな収益構造の構築」

「新観光地創出によるガーデンツーリズムの確立で観光客増加を目指す」

研究計画は右の通りです。

「地場産業の新たな収益構造の構築」

造園業には大量の石材が必要です。円安で輸入石材が高騰。輸送費もかさみます。私たちは、造園施工管理の授業で国内から多くの石材が産出されることを学び、地元石材を利用できるかもしれないと考え、小原地区の採石会社を訪ねました。風化した花崗岩のみを陶磁器の原料として出荷、目の粗い花崗岩や石英岩は産廃処分されていました。この石がロックガーデンの材料に似ていることに気づき、調べると同質であることが分かりました。これらを造園資材という付加価値を付け販売し、新たな収益構造を構築できると仮説を立てました。石英岩はレッドストーンという商品名で販売。海外産の石英岩は通常1t10万円前後ですが、レッドストーンは13,000円で販売できます。また目の粗い花崗岩にも着目、世界遺産「天龍寺庭園」の管理をされておられる曾根造園の社長に相談すると「京都の風化花崗岩である白川砂は、現在採掘が禁止され、希少価値が高い、欲しがらる造園屋さんには山ほどいる。」との助言をいただき「美濃白川砂」として販売することが決まりました。

内容	年月		2023												2024												2025											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10														
小原地区現地調査	採石場					採石場	掘削跡地				四季桜							四季桜																				
レッドストーン販売	打合せ		販売	宣伝						販売								宣伝			販売																	
美濃白川砂販売						打合せ								販売				宣伝			販売																	
第1スポット施工	設計	施工	公開																																			
第2スポット施工							打合せ		設計		施工							公開																				
第3スポット施工																				打合せ	設計	施工																
豊田スタジアム施工																					設計	打合せ																
とよたガーデニングフェスタ				設計	施工		公開		片付							設計	施工	公開	片付																			
アンケート調査																			実施																			
豊田四郷駅前施工																				設計																		
地産地消映画制作																打合せ	撮影	編集					公開															
四季桜繁殖・管理					2年目苗鉢上	挿し木					剪定講習							2年目苗鉢上	挿し木				剪定講習															
クラウドファンディング																								打合せ														

産廃 石英岩

商品 レッドストーン

造園原料には使えなくても、造園業においては価値がある。

海外産より輸送代がかからず格安！

ロックフェイス石英岩 (キリシヤ産)

輸送費別 1t: 114,740円

販売することにより

現在採掘禁止の白川砂と同質！

「希少価値の高い商品で売れる」

これが売れる！ 地元産材に価値！地産地消で産地復活へ！

「新観光地創出によるガーデンツーリズムの確立で観光客増加を目指す」

小原地区に新たなランドマークとなる庭園をつくり、地元の石材と植物を多く使用

することで商品の宣伝と、ガーデンツーリズムによる周遊観光で観光の両立が狙えると仮説を立てました。ガーデンツーリズムとは、国土交通省が推進する地域活性化と庭園の普及を図るために、各地域の複数の庭園・公園を連携させ魅力的な体験・交流を創出するものです。

造園という武器で持続可能なまちづくり～継承世代の地方創生～

作庭チームSAKUR★

「ガーデンツーリズム」

小原版・四国巡礼の仕組み構築

周遊観光

農村歌舞伎

紙漉き体験

小原観光協会と共同展開。

地区内の飲食店、宿泊施設を巻き込む形に。

地区に点在する掘削跡地に観光拠点となる庭園を造り、小原版四国巡礼の仕組みを構築。飲食店や紙漉き体験など地元の文化施設などを巻き込むことで時間をかけて地区を巡る、オールシーズン滞在する客を期待できます。

掘削跡地のランドスケープ化。2024年2月、地元の石材を使用し1つ目のランドマーク地産地消庭園「東郷憩いの杜」が完成。輸送時の二酸化炭素削減と掘削跡地の緑地化、石材の宣伝・観光地の新設を達成。



さらに2つ目のランドマークを造るため、市内で人気の豊田ガーデン・花遊庭を手掛けた現代の名工を訪ねました。「小原の風景そのものが都会の人には魅力的、それを生かすべき」とのアドバイスを受け、田園風景や城跡、小原和紙、採石跡地に残る水車など古くからのものを取り入れ、公園にして文化的価値を保存。造園計画のCAD演習・製図の学びを生かし、小原の魅力満載の設計にこだわりました。

「小原和紙の里」の協力で葉漉きを行い灯籠を製作、公園を照らします。

地元の自治会の方や企業・豊田市と協働で施工。造園施工管理の学びを生かした石積み、石の据え付けなどを行いました。ただ平日私たちは学校があるため、週末のみを利用したたった5日間という非常にタイトな日程で施工を完了することができました。ごらんください！これが私達高校生で作上げた「水車の見える公園」です。小原の原風景と現地の石材、植物にこだわり、四季桜とモミジの共演や、花が一年中楽しめます。石積みで土留めを行い観光客への安全対策も万全。さらに竹林整備を兼ねて地元の竹を伐採、腰掛けや竹垣など製作し環境整備にも貢献。私たちの学んできた知識と技術をふんだんに盛り込んだ地産地消の公園です。



デザイン・施工技術の高さが認められ、全国造園デザインコンクール・実習作品部門において大学生などを抑え、最高賞の日本造園建設業協会会長賞を受賞！造園のプロに認めていただきました。昨年2月のオープン当日には、豊田市長も激励に来られ、多数の取材陣に囲まれながら公園の主旨を説明しました。この様子は全国紙等で大きく

報道されPRにつながりました。今年3月には3箇所目のスポットがオープンし、5月には4箇所目が完成する予定です。

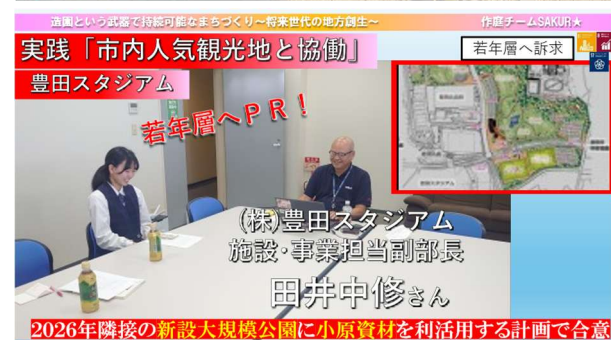
小原の植物と言えば、年に2回開花する全国的に珍しい小原固有の四季桜。崩落で失われた貴重な四季桜を挿し木繁殖させ、崩落現場に戻す。里帰りを試みます。四季桜の繁殖は難しいため、専門家加藤さんの指導のもとで繁殖試験を実践。昨年8月加藤さんがお亡くなりになり、私たちは唯一の技術継承者として活動を継続。今年2月、崩落現場に苗木を里帰り植樹しました。同時に小原観光協会へ苗木を提供、合計24本の苗木を里帰りさせ、観光地の復興と国土保全に貢献しました。現在私たちは四季桜の守るための勉強会を実施、地元の中学生へ技術指導を行い後継者育成を目指します。



昨年4月、レッドストーンを洋風庭園に取り入れた新ブランド『Redry』を発表。お披露目会で400名以上に注文用紙付きの

チラシを配布。大手造園業者からの注文が急増、公共工事でのレッドストーンの使用も決定。施工する豊田市四郷駅は、公共交通機関で唯一小原地区へ行くことのできるバスの始点があり、まさに小原の玄関口。大手ゼネコンによる基盤工事のあと、私たちのデザインが採用され、施工も行いました。学習科目の技術向上にも繋がりが、3日間で施工が完了しました。これに合わせて、県内のコンビニやスーパーに設置されるフリーペーパーで、石材の広告や水車に見える公園が特集されました。この記事を見た大和ハウスグループが、私たちのスポンサーになることに決定。第1弾として、豊田市で利用者の多い鞍ヶ池公園に、スターバックスコーヒーとコラボした庭園を施工。第2弾は豊田市駅前に計画中です。さらに「豊田スタジアム」に今年新設される都市公園の設計も依頼され、そこに小原の資材を活用することも決まり、地場産業と造園業への橋渡しができました。市民へのアンケートでもレッドストーンを自宅に使いたいと答えた方は65%にものぼりました。いまや、協賛企業は26社以上にも及びます。公園作りを通じて地元自治会と地場産業の橋渡しも進み、四季桜を守る活動で豊田市とも連携。私たちは剪定管理技術も習得し、美しい景観を未来へつなぎます。若

年層へ訴求するため、小原出身の映画プロデューサーの方に協力をいただき、小原地区を舞台にした地産地消映画「おはよう家族」を制作。





猿投農林高校でロケを行い、STARTの夢野杏奈さんと共演。昨年8月の公開日には多数のファンが来場、聖地巡礼で足を運んでもらえる

仕組みも構築。中学生向けの進路イベントにも出展、今後は将来世代が小原をプロデュースできる環境も完成。昨年3月と今年2月の二度にわたり愛知県知事へ小原地区活性化に向けた協力を要請しました。こうして産学官民の枠組みを構築、私たちの活動がすべてを繋ぎました。これらの活動は各種メディアで取り上げられ、小原地区の宣伝に繋がりました。アンケートでも96%の方が小原へ行きたくなったと答えています。昨年8月には地方創生の成功モデルとして大阪関西万博へ招待されパネルを展示。世界各国からの来場者の前で発表を行いました。この模様は世界中に配信され「小原」は世界の『OBARA』へ！

現在、水車の見える公園を地元の方が進んで手を加えています。住民の意識が変わり自立した地方に変わりつつあります。また観光客数は、右のグラフの通りインバウンド需要により豊田市全体の観光客数は増加し、都市部は大幅に伸びています。いっぽう山間部の観光客数はほぼ横ばいで伸びていません。そんな中、小原地区の観光客数は3万人も増加。今後、ガーデンツーリズムのスポットが増えていけば四季桜まつりへの依存度は更に減り周年集客できる構造が構築できる見通しです。

いっぽう、愛知県初のガーデンツーリズム登録には、該当地域を拡大する必要があるとわかりました。そこで県内で課題を抱える地域の資源を価値化、庭園化しガーデンツーリズム網を広げます。最初の対象地は愛知県・豊川市街地に残る貴重な里山です。この場所の課題、それは「メガソーラー」の脅威。メガソーラーは全国で9,000箇所、面積2万3千ヘクタール・大阪市と同じ面積にも及び、森林伐採・土砂災害の引き金と、光害により日常生活に悪影響を及ぼします。豊川市北部の森林地帯は既にメガソーラーに蝕まれ、この里山も消えようとしていました。里山を守るため、造園力を貸して欲しいと地元企業・豊川市から総合プロデュースの依頼を受け、現地調査を実施。立ち入り制限をされる理由は、不法投棄の温床となっているため、人の手が入らず荒れ放題、危険な箇所もあります。林内にはクリや竹林、千両が自生、その中に「キノセンリョウ」を発見。造園では人気があり、高値で取引される希少種。これらを生かし里山をゾーンに分け、目的を持たせます。「竹林ゾーン」非常に荒れており、全国の竹林でも同様の問題は起きています。ところが造園業では輸入竹材価格がこの10年で2.2倍に高騰し需要は拡大しています。京都・高台寺をはじめ、美しい竹林は観光資源にもなります。そこで、除伐した竹を地産地消の造園資材として、加工、竹垣製作を行いました。小原石材、倒木の丸太を利活用。地元造園業者から資材提供も受け、石灯籠の設置等、貴重な経験を積みながら金閣寺垣が完成、竹林ゾーンを竹取物語として、観光竹林に蘇らせました。「散策ゾーン」土砂崩れの危険がある場所に、先ほどの竹材を利活用し伝統的な造園土留め技法「しがらみ」を施工、安全対策を行いました。センリョウは踏まれる恐れを避ける園路を整備、新たな観光資源を生み出します。里山の高低差を考慮し、高齢者への配慮でベンチも制作。里山の公園化が完成。私たちのプロデュースした里山は、「ちぎりの里山」として1期工事を完了しました。3月オープニングイベントを開催。地元の方を招き、里山クイズや認定バッジ配布などを行い地域振興に繋がり、地元へ愛される里山に生まれ変わりました。

これらの活動は、新たな若い視点や発想、造園力で魅力あふれるまちの未来を創り、必ず地方創生を達成します！

